



平成 22 年 2 月 10 日

**特別号**

有限会社 ルミエールケアサービス  
大阪市中央区谷町3丁目1-11  
大晋ビル303  
代表取締役社長 山本さと子  
電話 06-6949-3729  
FAX 06-6949-3776

## 介護職の確保・育成に向けて

有限会社 ルミエールケアサービス  
代表取締役社長 山本 さと子

今、わが国は超高齢社会を目前にして高齢者介護の問題は、重要な課題になっており、離職者を対象に介護職への転職を勧めるべく養成に力を注いでいますが、人的サービス事業である介護現場の実態は年々多様化、重度化し、単なる机上の対策でなく現場に即応した待遇改善と資質向上策が急務の課題であると思います。

又、この問題は私たち事業者にとっても事業運営上重要な課題の一つになっています。

当社では、課題対応への一つとして事務管理部門に栄養士（2級課程資格所持）を雇用し、これを機に定期研修の他、社報エール（年4回）、エール別冊栄養情報（毎月）の発行や健康管理等に関する情報を随時提供するなど資質の向上に努めています。

平成21年度は、介護食（嚥下）について定期研修を実施しました。今回その参加者からの感想文と例年、短大生等の訪問介護員養成講習受講生の実習受け入れをしていますが、受講生の方から頂いた体験感想文をもとに社報エール特別号として発行いたしました。

是非、一読いただきご高見いただければ何より幸いです。

# 社内研修会

於：平成21年12月10日（ルミエール研修会場）

昨年、様々な現場や外部研修においてよく耳にした内容を元に社内研修を約30名（午前午後あわせて）の参加で行いました。

今般言われていることとは介護技術の向上より、接遇等のマナーアップであります。

言葉使いや、お辞儀の仕方、姿勢など当たり前のことなのですが。研修をしなくてはならなくなったことが、少し残念です。

又、「摂食と嚥下について」と題し山本佐紀栄養士の指導の下、嚥下のしくみや、困難な方への使用方法また、種類について勉強し又、参加者全員でトロミの演習と試食を体験しました。

特に研修を行って気付いた事は、再確認が何度も必要なのではないのでしょうか。

人は、感謝と、初心を持って生きていかなければいけないと感じました。

社内研修を受けた介護職員より感想を頂きました。



（接遇研修風景）



（摂食・嚥下研修実習風景）

## 【研修受けて】（ヘルパー M・S）

まずは、自分の中では、守られていない事もあり、再確認できてよかったと思う。特にマナーについて、すごく堅苦しく会話をするほうが良いのか、普段の会話のような話し方が良いのか、迷ってしまい、変な口調になり、利用者さんに合わせて話すことも大事であるが、崩し過ぎる面もあって守られていないこともあり、反省する点があった。

もうひとつ大事なことと思ったのは、報告、連絡、相談のいわゆる「ほうれんそう」です。

現場にいるのは私たちですから、現場の声をしっかりと事務所に報告し、又、連絡し困ったことも含めて相談することが、利用者様の状況改善の一つであり、介護現場の生の声を正確に伝えることが必要であると思いましたし、これからも気をつけて逐一報告したいと思いました。

今回の研修を受けて、再度確認でき、気づき、反省、納得が出来ました。これからの介護業務に生かしていきたいと思えます。

当事業所では、訪問介護員の育成のため諸団体より介護職員同行訪問の委託を受けています。

これからの介護福祉を沢山の皆さまに支えてほしいと思いお受けしています。

その中で二団体の各実習生の方に感想文を頂きました。

本来ならば、すべての方の感想文を載せたいところですが、紙面の関係上お二人の方の感想文を掲載したいと思います。

## 介護と人権

### 訪問介護員 2 級研修 同行訪問実習生 瀬川 秀夫

まず介護とは何か？ ようやく介護の 1 ページを開いた私ごときが大先輩の前に「介護とは」なんて、偉そうな話をするつもりは全くありません。

介護については、大先輩の方々にこれから教えて頂く事ばかりなのですが、ようやく 1 ページを開いた私だからこそ見えるもの、又感じる事があります。それが人権です。

ある施設（今回の実習先とは何の関係もありません）での話です。

介護職員の方が利用者さんをお呼ぶ際に〇〇ちゃんとか、あだ名で〇〇ちゃんとか声を掛けておられるのを聞きました。又ほかの施設では、事務職員の方が「××の消耗品、付け忘れて無いか？」と利用者さんをお呼び捨てです。

さて、こんな施設がまだまだ沢山あるように思います。皆さんどうお感じでしょうか？根底に介護してやっている。面倒を見てやっていると言う気持ちで介護の現場に携わっておられるのではと不安に思っていますよね。考え方が間違っているのかもしれませんが、介護料を頂く限り利用者様は、お客様です。そして、何よりも人生の大先輩であり、私達の親やそれ以上の年齢の方に対し、お体を動かすことが辛くなられた部分をお手伝いして差し上げる。同時に心も気持ちも健やかに生活して頂ける様お手伝いするのが本当の介護ではないのでしょうか？

人権とは人が生まれながらに持っている自由、平等の権利なのです。

たとえ体が思う様に動かせなくなっても、たとえ認知症になられても、その方の人権が失われる事はありません。

介護現場の我々は忙しさのあまり介助が優先してしまい人権を忘れがちではありませんか？ ただ介助するのではなく、心の通った気持ちのこもったお手伝いを心掛ける事で、利用者さんだけではなく自分自身も気持ち良く仕事ができるのではないかと感じさせていただいた大変有意義な今回の講習会でした。

私も現場の風潮に流されず今の気持ちを維持しながら、どこもが素晴らしい心のこもった介護現場になる日を切望し今回お世話になった諸先生方に感謝とお礼を申し上げ、最終のレポートとさせていただきます。

ありがとうございました。

(平成 21 年度社団法人大阪府シルバー人材センター協議会開催 訪問介護員養成講座受講生)

## ホームヘルパー2級 実習を終えて

大阪薫英女子短期大学 生活科学科 丹羽 友梨

私は、この2日間の訪問介護実習で感じたことは2つあります。まず第一に「コミュニケーションの大切さ」です。ただ仲良く利用者様と接するのではなく、節度ある態度で尚且つ信頼関係を築けるようにすること。しかし、あまり深入りしすぎるのも注意しないといけなかったと思います。これは、短時間でできることではないので日々の積み重ねがヘルパーと利用者様とで、良い信頼関係につなげることに繋がると感じました。

あと、第二にやっぱり「技術の向上心」です。掃除や洗濯や料理などなど自分のことなら適当にすましてもいいかもしれませんが、しかし、丁寧で臨機応変に対応できることもヘルパーの仕事で大事だと思いました。

私は、初めて会う人の家に行って何を話したらいいのだろうと不安に思っていました。けれど、利用者様と普通に会話できて良かったです。短い時間でしたがヘルパーさんや利用者様に濃い内容を学びました。

## ホームヘルパー2級 実習を終えて

大阪薫英女子短期大学 生活科学科 四方 智美

介護実習を終えて、実習をする前は人のお世話をするのは大変だし、しんどいだろうなと思っていました。

実際に実習してみると、コミュニケーションをとったりするのが、とても大変でした。けれど大変な事ばかりではなく、利用者さんに「お話できて楽しかった」と言って下さる方がいてとても嬉しかったです。

また、本当に大切だなと感じた事があって、それは環境整備をきちんとする事です。なぜなら、利用者さんの生活の場となっているので、過ごしやすい環境づくりをしないといけないと思いました。

訪問介護同行訪問では、限られた時間の中でヘルパーさんが料理や掃除をしたりと、本当に忙しいんだなと思いました。

実際に訪問に行くと、利用者さんは、ヘルパーさんの事を必要としているんだなという事を強く感じましたし、信頼関係を築かないとできない仕事だなと思いました。

## 閑運虎

克己作  
今年は閑運飛躍  
の年です。



### 発行・編集

有限会社 ルミエールケアサービス  
〒540-0012 大阪市中央区谷町3丁目1-11  
大晋ビル3階303

TEL 06-6949-3729 FAX 06-6949-3776

URL <http://www.lumiere-care.com/>

E-mail [lcs3105@chive.ocn.ne.jp](mailto:lcs3105@chive.ocn.ne.jp)